



舞台芸術系 コンテンポラリーダンス 豊永洵子さん



「thuberosa」  
choreodraphy/dance: Junko Toyonaga  
Costume: Koori Tamura (HAReGI)  
Photo: Yoshiki Shigematsu

ダンスとの出会い

私のダンスとの出会いは、幼少時にさかのぼります。当時、安室ちゃん、TRFなどの影響で、ダンスの人気も上昇し、将来の夢はバックダンサーなどと考えていたが、幼いながらに「誰かの後ろで踊るだけ」というダンスに疑問を持っていました。また当時は、ダンスだけで生きていくという道も知りませんでした。

一つ目の転機

そんな私の一つ目の転機は筑波大学へ入学したことです。ダンス部で部活動に明け暮れる中、个性的な仲間に出会い「自分は何かができるのか」を考え続ける日々を過ごしました。また大学院では、「コンテンポラリーダンス」を研究テーマにし、ここで出会った人たちの影響

もあり「なんとかしてダンスに生きていきたい」と思うようになりました。

二つ目の転機

二つ目の転機は大学卒業間際に参加した海外でのダンス研修でした。「価値観も何もかもが全く違うところへ！」とあまり計画性もなくイスラエルに行きました。何よりこの機会によってダンスの自由さや面白さ、そして踊ることの喜びを再認識したことは、今も踊り続ける原動力となっています。

創造スタッフ活動

東京での活動を経て3年前に愛知に移住し翌年から文化の家の創造スタッフ活動を行っています。日本の劇場において「ダンス」自体まだまだ開拓中のジャンルであり、特に「コンテンポラリーダンス」というダンスジャンルは、なじみがないものです。「見たことがない」「難しい」と言われることが多いのが現実です。私の最近の活動の中には、自らが日常の場に入り込んでダンスを目撃してもらおう事や、他ジャンルとコラボレーションを行うなど、ダンス普及活動的なことも行っています。

コンテンポラリーダンス

コンテンポラリーダンスは、動きの型による分類ではなく、その時代、振付家の考え方や身体を媒体に「作品」として表現されます。その中で踊ることを通して、観客の皆様と言葉にはならない「何か」を共有できることが魅力のひとつです。

これからの抱負の一つとして、芸術をもっと身近に感じてもらう、文化の家でいろいろなダンスを観ていただけるよう、様々な環境を整えられればいいなと思っています。

12月14日(金)文化の家風のホールにてダンス公演も企画しています。



スギテツがやってきました!

クラシックで笑顔を創る

7月28日、フランス企画『ゆかいな音楽会』は異例のコースをとる台風12号が迫りくる中、小中学生をはじめとする幅広い年齢層の方々を迎え、森のホールで開かれました。

最初の曲は「剣のずいずいづころばし」、ハチャトリアンの「剣の舞」と「ずいずいづころばし」を融合した軽快な音楽でスタート。杉浦哲郎さん(ピアノ)、岡田鉄平さん(バイオリン)お二人独自の視点でアレンジした曲が次々演奏され客席からはブラボの声掛けや温かい拍手と笑いにつまれました。

中でも「犬のおまわりさんの運命」は、左手に犬の指人形を付けたままの演奏に最前列の子供たちは立ち上がりかぶりつき、「ボッケリーニと笑点のメヌエット」では、座布団と座布団運びまで登場しました。

「長久手ストリングスハーモニー」とのコラボレーションでは、火曜サスペンス劇場のテーマソングを入れた「美しき青きドナウ河のさざなみ殺人事件」の迫力のある演奏の中でパトカー、救急車のサイレンも登場。

「ラデツキー行進曲」では、会場の手拍子がスギテツの演奏と一体化、盛り上がりは最高潮に。余韻を残したまま楽しかったコンサートは無事終了しました。